長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年５月２７日(金)

本番！

明日はいよいよ運動会です。コロナ禍にあって多くの制約はありますが、その中でどのような運動会ができるか、子供達、教職員が協働して、あるべき姿を探ってきました。

６年生にとっては小学校最後の運動会、１年生にとっては小学校で初めての運動会、また、それぞれの学年にとってもそれぞれの思い入れがあることでしょう。

日頃から私は運動会についてこのように考えています。「勝ち負けの結果より、結果にたどり着く過程が重要だ。」と。子供達は運動会の経験からお金では買えない尊いものを手に入れるはずです。楽しみです。

子の成長徒然

一昨年12月に長女が入籍し、家を出た。双子の息子は揃って大学進学、我が家は家庭の雰囲気がかなり変わった。

３人の子ども達、それぞれが生まれる時の事を思い出してみた。長女の時、「とにかく無事に生まれてくれるだけで良い。」と願い、千羽鶴を夫婦で作ったことを思い出す。双子の男児が生まれる時もそうだった。双子の場合、充分におなかの中で成長させるため、２ヵ月ほど早めに入院することになり、千羽鶴は私１人で作った。作りながら思うことは、「母子ともに無事であって欲しい。」だった。出産時は、出血が止まらず輸血の承諾書にサインしたことを鮮明に覚えている。あの時は、出産の喜びよりも、母子の命を心配した。

あの時、「命さえあれば…」と考えていた私なのに、節目では親としての欲が首をもたげ、やれ、勉強しろ！、もう少し頑張れ！　と口やかましく我が子に押し付けたものだ。

これでは子どもが息苦しかろうと意識改革ができたのは、我が子の中学入学からだったように思う。３人の我が子には、徹底して「自己決定」に拘らせた。親の言う通りにしていれば安心だという保護者もいるかもしれない。しかし、私の教職の経験から、いつまでも「保護」するような立ち位置では、子どもの自立を阻む事が多いように思う。何故なら、そこには自己責任という発想が無いからだ。親の言う通りにしていたから失敗したとか、こんなはずじゃなかったとか、壁に突き当たった時に責任転嫁をすることが多いようだ。そうなると、将来的に困るのは誰あろう、私達保護者である。これからも、我が子を少し離れたところから見守ることにしたい。

最近の社会③

自分で書きながら、生意気なことばかり書いてしまって、反省しきりです。さて第３弾です。

⑤心をお金で買う社会？

最近感じませんか、子ども達のお金に対する認識の甘さを。最近の子どもは結構お金持っていますよね、冬休みとかは大人よりもお金を持っていたりします。でも、大体、子ども達が買う物って決まっています。ゲームソフトやマンガ本、あとは菓子、そして、プリクラ？　一日千円以上遣うこともあるそうです。さて、問題なのは、何か欲しくなると両親や祖父母にねだる場合です。ねだって怒られてすむ場合はまだいいのですが、すぐに買ってあげるような場合は問題ですね。前にも述べたように、親子関係が友達関係のようになってしまい、縦の繋がりが薄れつつある現代においては、物やお金は非常に大きな力を発揮します。小さい子どもに物や金で機嫌をとる親、それが当たり前のように考えている子どもが増えてきているような気がしています。人の心は絶対に物やお金では買えません。物やお金での繋がりは表面的で長続きしませんし、しっぺ返しがきます。子ども達に本当に必要なものは何なのかを、私達大人がしっかりと考える必要があります。

シリーズ「自分を語る」#１１

私が通った小学校は２つあります。転校ではなく、学校のマンモス化に伴い、新設校に通うことになったのです。私は小学３年生まで、熊本市立城北小学校に通いました。４年生からは熊本市立麻生田小学校に通い始めました。と言っても、麻生田小学校校舎はまだ建設中で、自宅からすぐ見えるところに麻生田小学校が建てられているのに、４年生の１年間は城北小学校に間借りするかたちで、せっせと歩いて登校しました。という訳で、私は１年生から４年生まで、往復３．４㎞の道のりを歩き通しました。長洲小学校の子ども達の中にはそれ以上の距離を歩いてくる子がいますね。素晴らしいことです。登下校によって子ども達の心身は結構鍛えられます。体調不良の時など、送迎を自家用車で行うこともたまにはあります。ただ送迎が日常になると、子ども達はそれが当たり前という認学習をしてしまいますので注意が必要です。実は私の父は自動車の免許はもっているものの、ペーパードライバーで、専らホンダ・スーパー・カブ号（６０ｃｃ～９０ｃｃ）にしか乗りませんでした。私たち兄弟の送り迎えなどは一切なく、とにかく、歩き、と、自転車、が私達兄弟にとって当たり前の交通手段でした。当時は、親に送り迎えをしてもらうことは何か悪いことをしているような、そんな雰囲気もありましたね。

さて、大好きだった３年生の時の担任の先生は城北小学校に残ることになり、更には仲の良かった友だちとも別れ、クラス替えもあり、色々なことが重なって、４年生の時は初めて「学校に行きたくない」という気持ちになりました。当然のことながら、私の両親がそんなことを許すはずもなく、高熱があっても「差し当たり行ってけぇ。」が、両親の口癖でしたから…。そんな気持ちで学校に行くと、やっぱり色々なトラブルがあるものです。担任の先生ともあまりうまくいかず、４年生の１、２学期は、小学校生活の中でも、最も嫌な時間だったかもしれません。人と、うまくやる、ことを覚え始めた時期でもありました。私達のように、いわゆる、悪ゴロ、に対応する時、まさに「認め褒め励ます」ことが必要になってきます。褒められる経験が少なかった私にとって、たまに褒められると、「よし、この先生のために頑張ろう!!」って気になるんですよね。厳しくても「子どもの言い分」を聞いてくれて、「ダメなものはダメ」を徹底される先生には安心感がありました。

３学期からは新校舎で生活することになりました。あの頃楽しかったのは、運動場の整備です。何もなかった場所に学校が出現したのですから、運動場もへったくれもありません。体育の時間はサーキットトレーニングか運動場の整備でした。今は重機であっという間に整備されますが、何故か当時は我々の手で整備していきました。リヤカーや一輪車を扱うのがとても嬉しかったのを思い出します。その甲斐あってか、５年生になってからは通常通りの体育ができるようになります。また、クラス替えもあって新しい友だちができ、担任の先生も替わり、楽しい２年間が始まるわけです。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）